

確かなシステムで快適な 日常生活を支える。

沖縄電力(株)南大東電業所

1970（昭和45）年に全島電化が実施され、翌年より24時間送電となりました。当初は村直営の事業として実施されましたが、1972（昭和47）年に沖縄電力(株)の前身である琉球電力公社へ移管され、現在に至っています。現在、南大東発電所では、ディーゼル発電機4台を設置しており、許可出力は3,040kwとなっています。



南大東島地方気象台

日本全国どこでも“南大東島”という名を台風情報などで聞いたことがあるという人は多いと思います。太平洋上の南大東島にあって、台風や熱帯低気圧の発生・発達等の監視や調査にとって重要な役割を果たす貴重な観測拠点です。



光ブロードバンドサービス

令和4年8月22日より、光ブロードバンドサービスが一部地域でサービスを開始。将来的には全島域で超高速の光サービスを利用できるよう整備事業を推進。また海底光ケーブルを南北大東間にも敷設することで安定したサービスを提供できるように推進しています。



南大東郵便局（日本郵便株式会社）

国営から民間へと形態は変わっても、村民に親しまれる「お客様の現在と将来のより良い生活づくり」に貢献しています。

快適で潤いのある 生活を目指して。

南大東村海水淡水化施設

本施設は抜本的な渇水対策として、クリーンで豊富な海水を淡水化し飲料水他、生活用水として利用する施設です。1990（平成2）年に初導入し、現在の施設は、2023（令和5）年に沖縄県企業局が施設整備・管理・運営する水道広域化事業により完成しました。海水の淡水化には、逆浸透法（RO）を採用しており施設能力は最大750m³/日。淡水化後、ミネラル層を通し塩素注入した水は、併設（既設）の1460m³の貯水タンクと370m³の調整池にストックされ、万が一停電等が発生しても3～4日は供給に影響を与えない仕組みとなっています。



中水道施設

中水道は、トイレの洗浄水専用として活用しています。施設の目的は下水処理水を有効に活用することと淡水化施設の割高な生産コストの低減を図るとともに、使用者の水道料金の低減にもなっており、効果を上げています。